



■第3回 白十字株式会社（おむつメーカーによる新たな商品開発への取組について）

日時：2012年3月9日（月）15:00～17:20

場所：国立障害者リハビリテーションセンター研究所 第2研究棟第2会議室

ヒアリング対象者：村田 勝次氏（白十字株式会社 営業本部 マーケティング部 商品戦略課）

《ヒアリング先に選定した経緯》

- ・排泄問題は当事者の大きな問題となっている。排泄問題ワークショップでは、Phase2のワークショップにおいて、「緊急時にながちりガードしてくれるおむつ」「出ても匂いが出ないように飲む薬で対応してほしい」「座っている間に自然に排泄が出来てしまうもの」等についての研究開発が望まれるとの要望が出された。
- ・おむつメーカーである白十字社の現在の開発状況、開発の方向性など調査したくヒアリング対象に選定した。

《ヒアリング概要》

1. おむつについて

■利点

- ・機械に比べて軽く、簡単に持ち運べる。
- ・電源がいらない。
- ・尿は流れる道筋をつければある程度コントロールして吸収できる。

■課題・難点

- ・機械の様に吸引ができない。
- ・本体に染み込ませる或いは、閉じ込めることしか出来ない。
- ・固形物は染み込まないので肌に直接当たらないよう、皮膚とおむつとの空間を空ける必要がある。
- ・水溶様便はこぼれやすい。

■におい漏れの問題

- ・においが漏れ出してしまう。アンモニア臭ならば今のおむつもかなり抑えられるが、複合臭であり便や汗、体温による変化など、アンモニア臭以外のものがかなり匂うのを抑えることは難しい。
- ・どの匂いを防ぐか、ということを決める必要がある。
- ・中和反応や吸着法をはじめ、さまざまな新しい消臭方法が開発されている。複合臭を効果的に消臭する新しい技術の登場に期待している。

■サイズ・形について

- ・尿は入って行く道があれば吸い込むが、便の場合は表面積が必要になる。座位の方、寝た状態の方など、使用状況は様々なのでオールマイティに考える必要がある。
- ・不織布の網目模様を変える事で固形物の吸収を多少期待できるが、限界がある。対策として吸収表面積を広げる、つまり3次元的に空間を確保する必要がある。
- ・しかし段差や厚みがあると、寝た状態で利用するには褥瘡の問題も大きく出てくるのでバランス



を考えた立体的構造が必要である。

#### ■素材について

- ・スキンケアの面では、肌に触れる表面不織布によって吸収速度や逆戻り感が変わる。また微粒状の高分子吸収材が表面に出てこない工夫も必要である。
- ・おむつの中身は、高分子吸収剤と粉碎パルプの組み合わせであり、各社・各製品でその配分は異なるため、吸収率などにも影響があり、また吸収後の冷えや硬さもそれぞれ異なる。
- ・臭いの拡散とムレ軽減には相反する密接な関係がある。防水フィルムの透湿性の選定も重要である。

《高分子吸収材の吸収実験》



## 2. おむつメーカーとしての思い

現在、大人用おむつという（障害者ではなく）高齢者対象品となっている。施設利用などの現状から、幼児用のおむつと比較すると、高齢者用おむつは節約志向が強く、価格競争が激しい。そうした中では安ければいい、となることも多いため、障害者ユーザの要望を取り込んだ高価格帯の高機能おむつに取り組んでいくのは難しい。

実際の利用者や使用してほしいと思う方と、施設や介護などで使われる方（中間ユーザ）が異なるということが、ニーズ主導の開発を妨げているひとつだと思う。快・不快の意思表示ができないユーザもいるため、購入側にとって安さに重点が置かれがちなのは否めない。

障害者を含むユーザからの強い要望がきちんと発信され、メーカーにきちんと理解されれば、開発につなげることもできると思う。使用されている方からの意見は重要視している。

## 3. 今後のおむつ開発に向けて

### 【排泄問題とのかかわり方について】

- ・においは季節や体温、食べるものに寄って異なるため、どのにおいを分解するのか？がポイントとなる。成分を特定すれば、においを吸収する素材なども開発可能。（ただし、重度のおむつ利用者は体調のチェックという意味で排泄物の色やにおいを確認する事が重要であると考えている。）
- ・モレの防止は当然として、スキントラブルの予防や、排尿後のおむつの凝固による冷えや硬さ対策にも取り組んでいきたい。
- ・高齢者対象品となっているが、若い女性（生理もある）対策や、身体への密着性など様々な問題にも取り組むなども検討していきたい。

### 《参考資料》

- ・各種おむつ